

クロミスジシロエダシャク

6月頃にエゴノキやハクウンボクの葉を糸で袋状につづり合わせて食べるシャクトリムシ（幼虫）。最大長約20mm。体はやや濁った淡い緑色，白い縦縞がある。

まれに食害がやや目立つことがある。



1. 中齢幼虫，体長16mm。1993/6/16.

新得町，ハクウンボク。



2. 終齢幼虫，体長21mm。1993/6/16.

新得町，ハクウンボク。



3. 写真2の幼虫の巣。1993/6/16.



4. 雄成虫，体長10mm。2を飼育.

【学名】 *Myrteta angelica*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera)， シャクガ科 (Geometridae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州，屋久島；台湾。

【特徴】

幼虫は終齢で体長20mm。体はやや濁った淡い緑色。3対の白線が走るが，背面中央のものは細く切れ切れ。中齢は頭部，胸脚，尾端背面が黒く，刺毛基板も明瞭な黒点となって表れる。終齢は頭部が黄褐色となり，尾端背面や刺毛基板はわずかに黒っぽい。以上の特徴，巣を作ること，エゴノキ科樹木だけを食べることにより識別は簡単。

【生態】

幼虫はエゴノキ科のエゴノキ，ハクウンボクの葉を食べることが知られている。

年1化，成虫は8～10月に出現，幼虫は葉を糸で綴って食害し，土中で蛹化するという．春先に若齢幼虫が見られることから卵越冬と推定されている．

北海道の低山地では中齢幼虫が6月中旬に採れ，飼育したところ6月下旬に繭になり，9月上旬に成虫が羽化した．

【被害と防除】

発生量は少なく，防除は普通必要とされない．まれに食害がやや目立つことがある．気になるときは幼虫を取り除く．

【文献】

1975. 佐藤力夫，中島秀雄．日本産シャクガ科食草目録．Ⅰエダシャク亜科．蛾類通信，Suppl. 2：1-56.

1982. 井上寛ほか．日本産蛾類大図鑑．Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社，東京.

1987. 杉敏郎編集．日本産蛾類生態図鑑：1-453, pls 1-120. 講談社，東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

クロミスジシロエダシャク shakuga/kuromisu/
kaisetv.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，1995/12/27.

yochu1.JPG, 1yochu.JPG, 1yochusu.JPG, 1seichu.JPG

「写真1～4」原秀穂，北海道立林業試験場，1993.